

圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会
 発行人：石川 育成 編集人：前沢 千早
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

第42号内容

・世界初解明 治療に光
 難病の非特異性多発性小腸潰瘍症
 岩手医大研究グループ

岩手日報
 H27.11.8

難病の非特異性多発性小腸潰瘍症

世界初解明 治療に光

幼少から青年期に発症し、小腸からの出血などに一生苦しめられる難病の患者に、一筋の光が差し込んだ。岩手医大(小川彰学長)内科学講座の松本圭之教授の研究グループは、小腸に潰瘍ができる厚生労働省指定の難病、非特異性多発性小腸潰瘍症の発病の原因を世界で初めて突き止めた。これまで輸血などの対症療法しか打つ手がなく「不治の病」とされてきたが、今回の発見は特効薬の開発など根治につながる希望として期待されている。

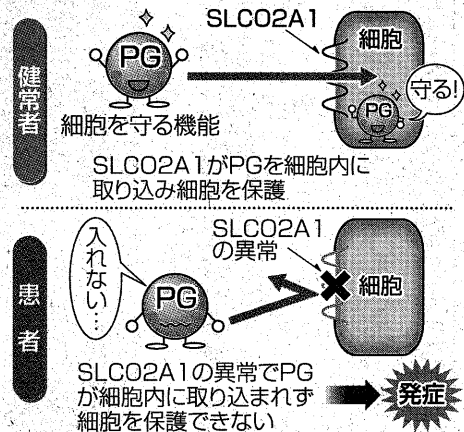


松本圭之教授

同グループは、同症が小腸の細胞に本来必要なたんぱく質「SLC02A1」が遺伝子変異のため消滅することで発病するメカニズムを特定し、5日付の米国の医学総合雑誌で発表した。同症の患者は全国に約400人いるとみられるが、具内の患者数は不明。発症すると小腸に多数の潰瘍ができて出血するため、重度の貧血に見舞われ

岩手医大研究グループ

非特異性多発性小腸潰瘍症発症のしくみ



非特異性多発性小腸潰瘍症の原因 小腸の細胞を守る物質プロスタグランジン(PG)を細胞内に取り込む働きを持つ遺伝子「SLC02A1」の機能異常で細胞内にPGが取り込めなくなり、細胞を保護できずに発症する。同症は約40年前に見つかった。症状が似ているクローン病と誤診されることも多かったが、2000年代に内視鏡など検査法の充実で識別可能となった。

障害が生じることが多かった。これまでは原因が分からなかったため根治できない薬を開発できず、輸血▽流動食の投与▽などの対症療法しかできなかった。今後は同グループの発見を基に、「SLC02A1」に代わるタンパク質の発見など、新たな創薬への展開が期待される。

松本教授は「長年苦しむ続ける患者さんの苦痛を取り除く突破口を開くことができただ。小腸疾患のリスクが高い人を発見する

遺伝子変異で発病

「不治の病」新薬期待

動くことがおっくうたり、引きこもったりため、第2次成長期に方法の確立にも寄与でなくなり、子どもの場合、栄養の重なる声変わりや月経が遅れるなどの成長話す。